

「旭丘・小竹地域における新たな小中一貫教育校について 令和3年1月」
に寄せられた主な意見等に対する区の考え方

小中一貫教育等について

主な意見		意見に対する区の考え方
1	小中一貫教育の目的はどういったものか。	区では、全ての小・中学校で、中学校区を基盤として「学力・体力の向上」「豊かな人間性・社会性の育成」「安定した学校生活」を柱に様々な連携活動を実施するなど、小中一貫教育の取組を推進しています。旭丘・小竹地域においても、平成23年度から小中一貫教育に取り組んでおり、3校の児童・生徒の交流、教員の合同研究会の開催など、9年間を見通した継続的な連携・指導を行っています。
2	施設一体型での小中一貫教育による「より高い教育効果」とは何か。	また、施設一体型については、同一施設内である利点を活かし、「教員間の連携強化」「異学年交流の活性化」「同一施設内での円滑な移行」等により、教育効果が高まることが期待できます。 新学習指導要領においても初等中等教育の一貫した学びの充実が求められており、引き続き、保護者や地域等のご意見を伺いながら旭丘・小竹地域の特性を活かした魅力ある学校づくりを進めています。
3	小中一貫教育校になると異学年交流は活性化するのか。	各小学校においては、小学1～6年生が同じ班でクリエーション等を行う縦割り班活動などの取組、また、小学校と中学校間においては、中学校生徒会による中学校説明会や小学生の中学校部活動体験など様々な異学年交流を行っています。 旭丘・小竹地域においても、中学生がリトルティーチャーとして両小学校で学習支援を行うなどの取組を、これまで行ってきました。
4	異学年集団の行事は、年齢差に配慮して実施する必要があるのではないか。	今後、新校開校までの準備についても、3校の連携充実に向けて、引き続き、保護者や地域等のご意見を伺いながら取組を進めています。 異学年交流のあり方等については、児童・生徒の発達段階を踏まえた適切な実施形態を確保していきます。

教育活動・学校運営等について

	主な意見	意見に対する区の考え方
5	旭丘・小竹地域の特色を活かした、時代にあった魅力ある学校を期待する。	新たな小中一貫教育校は、区としては初めての改築を伴う施設一体型の一貫校となります。改築により開校までに今後概ね6～7年程度の期間を要することが見込まれていますが、この準備期間の中で新校の教育内容や行事等について検討していきます。
6	学校行事は児童・生徒の選択性や自主的な企画運営ができるとよい。	他自治体の事例等も参考にしつつ、これまで3校が取り組んできた3大学の学生による合唱指導やオペラ鑑賞会、留学生との交流といった大学連携等の活動をさらに充実させるなど、引き続き、保護者や地域等のご意見を伺いながら旭丘・小竹地域の特性を活かした魅力ある学校づくりを進めていきます。
7	学校行事だけでなく、授業やクラブ活動、交流活動等においても、大学や地域の施設等と連携してほしい。	
8	他自治体の先進的なカリキュラムも参考にしてほしい。	
9	開校に向けた検討については、子どもの意見も聞いてほしい。	
10	5年生からの50分授業は子どもが疲れるのではないか。遊びを楽しくやれる時期・遊ぶ時間をしっかりと確保してほしい。	5年生からの50分授業の効果として、習熟度に応じて個別に指導を受ける時間を確保できる、学んだことを活かして発展的な学習に取り組むことができるなどの点が見込まれます。 新校における50分授業のあり方については、休み時間の確保等も含め、保護者や地域等のご意見を伺いながら検討していきます。
11	小学校は45分授業、中学校は50分授業だが、同じ校舎内だとチャイムの扱いはどうなるのか。	小学校・中学校でチャイムの音色を変える、チャイムを鳴らさないことで時計を見て行動する習慣を促すなど、様々な対応が考えられます。 新校のチャイムについては、保護者や地域等のご意見や施設状況等を踏まえながら検討していきます。
12	一部教科担任制は、先生の負担が減るのでよいと思う。	現在、国の中教育審議会においても、小学校高学年への教科担任制の導入が検討されています。新校においては、施設一体型のメリットを活かし、より効率的な指導体制を検討していきます。

13	5年生からの部活動参加は、希望する子どももいるのでよいと思う。	<p>部活動に参加することで、自主性や年齢が異なる集団における実践的な態度が身につくなどの効果が見込まれます。</p> <p>大泉桜学園では、小学校高学年の希望者については、中学生との体力や体格の違い等に配慮し、活動の内容や時間を工夫しながら部活動に参加しており、運動や文化に親しむ態度の醸成につながっています。新校における部活動については、保護者や地域等のご意見を伺いながら検討していきます。</p>
14	部活動については、外部指導者も配置してほしい。	<p>専門性の高い外部指導員を配置することにより、活動時の安全や生徒の技能面が向上することが考えられます。単独で指導や引率ができる部活動指導員の配置についても、併せて検討していきます。</p>
15	小学校から中学校へと学校が変わることで、自らの成長を実感できるのではないか。	<p>合同行事のほかに、クラブ活動や移動教室等の様々な機会をとらえて6年生がリーダーシップを発揮できる場を創出するなど、学年の枠にとらわれない弾力的な教育活動と小学校・中学校の区切りを意識したメリハリのある教育活動の両立ができる取組を進めています。</p>
16	小学校と中学校の入学式を合同で行うと、時間が長くかかるのではないか。	<p>新校における式典のあり方については、保護者や地域等のご意見を伺いながら検討していきます。</p> <p>大泉桜学園の入学式では、新小学1年生に配慮し、お祝いの言葉等の全体のタイムテーブルを短縮するなどの工夫をしており、他校と比べても時間が長いということはありません。</p>

17	家庭環境の異なる子どもたちが機会平等に、日常的に気軽に学べる ICT 環境を整備していってほしい。	区では、令和3年2月末までに児童・生徒1人1台のタブレットパソコンを導入しました。使用場所を選ばないLTE回線を採用することで、全ての家庭で負担をかけずに利用できるようになっています。
18	新校の教育内容や旭丘と小竹の連携において、ICT 活用の方針を検討してほしい。	小中一貫教育においては、児童・生徒や教職員間の様々な交流等が考えられますが、ICT 機器やオンライン会議サービス等を効果的に活用することで、物理的な距離や時間の負担が軽減されるとともに、児童・生徒の主体的な学びや、理解力、表現力の向上等を図ることができます。新校においても、通常授業だけでなく、学校間交流や乗り入れ授業()等の様々な場面において、効果的なICT活用を検討していきます。
19	リモートの会議や授業などを活用し、小中一貫教育のプログラムを進めてほしい。	() 乗り入れ授業 中学校教員が小学校で児童向けに行う授業、または小学校教員が中学校で生徒向けに行う授業
20	幼児教育との連携も検討してほしい。	旭丘・小竹地域では、保育士と教員が懇談会で意見交換を行ったり、子どもたちが保育所や小学校で過ごす様子を互いに見学するなど、幼保小の連携に取り組んでいます。新校においても、これまでの取組をより充実させるなど、活発な連携を進めています。
21	新校の教職員の配置はどうなるのか。	区では、施設一体型の小中一貫教育校であっても、小学校・中学校それぞれの教職員の配置人数は変わりませんが、管理職については、校長1名・副校長3名の体制となります。 施設一体型の利点を活かし、小・中学校の職員室を一体化することで連携強化や移動の負担の軽減等を図るなど、校務の効率化に取り組んでいきます。

22	標準服(制服)は、丈夫で着心地がよく子どもが着たいと思うものがよい。ジエンダーレスの観点から男女ともスラックス等を選択できるとよい。	新校の標準服(制服)については、小中一貫教育校推進委員会を中心に、保護者や地域等のご意見を伺いながら、導入の有無等を検討していきます。今後の検討状況を踏まえ、就学援助や標準服(制服)のあり方についても検討していきます。 大泉桜学園では、開校当初は希望者のみ標準服(制服)を着用という形から始め、当時の保護者や地域のご意見を伺う中で、段階的に導入が進み、現在では完全導入となっています。中学生(第7~第9学年)は、標準服(制服)を着用することにより、所属感や学校生活への意欲が高まっています。
23	標準服(制服)か私服かは、児童・生徒が選択できるとよい。着用は7年生からにしてほしい。	
24	今の在校生が購入しなくてもいいように、段階的に導入してほしい。購入にあたって就学援助が利用できることなどの周知を検討してほしい。	
25	新学校名は「旭丘」で、校歌や校章も既存のままよいのではないか。	新校の校名・校歌等については、児童・生徒や保護者、教職員、地域のご意見を伺いながら検討していきます。
26	工事期間中に校庭や体育館等の施設利用に制限があるのであれば、指定校以外への転校(区外も含む)を簡単に認めるべきと考えるが、配慮してもらえるのか。	校庭については、工事期間中、全面使用はできませんが、工事工程ごとにできるだけ屋外運動スペースを確保できるよう検討していきます。 体育館は、工事期間中においても小学校・中学校いずれの体育館も使用できるように計画します。 指定校の変更については、申請理由が区の定める承認基準に合致しており、かつ、希望校に学区外から受け入れる人数の余裕があることが必要です。申請理由や希望を丁寧にお伺いし、個別に審査していきます。なお、区外への区域外就学については、他自治体での審査となりますので、希望する自治体にご相談ください。

設計・学校改築等について

	主な意見	意見に対する区の考え方
27	基本設計と実施設計について、それぞれの期間に、何を、いつのタイミングで、どのように意思決定されるのか。	令和2年度に基本設計を行い、計画どおり、令和3年度から実施設計を開始します。現時点で、スケジュールや規模等の変更はありません。 基本設計では、児童・生徒数や既存の建物配置等を踏まえながら、新校舎の建物配置、平面・立面計画、建替計画等の検討を行います。実施設計では、基本設計に基づき、建物の詳細にわたる図面を作成し、工事発注のための積算を実施します。
28	新型コロナウイルスの影響で、スケジュール変更や予算縮小、出生数減少による計画変更等はないか。	来年度以降も、説明会や小中一貫教育校推進委員会を定期的に開催し、保護者や地域からいただいたご意見を踏まえながら、教育委員会として段階に合わせて決定していきます。
29	第一体育館の影で、校舎棟の日当たりが悪くなるのではないか。第二校庭についても、凍結等のデメリットが想定される。	授業や部活動等における児童・生徒の安全性に配慮し、南側敷地に第一校庭、北側敷地に第二校庭を分けて配置しています。 第二校庭については、建物の形状や校庭の舗装など様々な工法を比較検討し、良好な教育環境となるように設計を進めています。
30	小学生は第二校庭を、中学生は第一校庭を、体育や休み時間、部活等で使うという認識なのか。第一校庭は校舎棟から遠く、休み時間や遊びに行く頻度が減るのではないか。	基本的には、第一校庭は主に中学生、第二校庭は主に小学生の利用を想定していますが、活動内容等に応じて柔軟に対応していきます。 小学校・中学校ともに教室は北側敷地の校舎棟への配置を予定していますが、渡り廊下を活用するなど、第一校庭へのアクセスを工夫していきます。 休み時間の遊び場を含む各校庭の利用については、児童・生徒の安全や利便性、授業時間等を十分に協議しながら、引き続き検討していきます。
31	第一校庭の一部は都市計画道路予定地の指定があると思うが、加味した上での配置か。事業決定までは校庭として使えるのか。	都市計画道路予定地の指定がありますが、予定地が校庭の南端に位置するようにすることで、工事が行われるような場合でも大きな影響がない計画しています。なお、事業決定までは配置イメージのとおり校庭として利用します。

32	プールが校舎棟と離れているが、教室で着替えて渡り廊下を歩くのか。	教室で着替えて移動する必要がないよう、プール横に更衣室を設置する予定です。
33	体育館や教室等には冷房を設置してほしい。	体育館や教室等には、空調設備を設置する計画です。教室については、地域の児童・生徒数の今後の推計等を踏まえ、小学校・中学校ともに各学年2クラスを想定して設計を進めています。
34	1学年何クラスを想定して設計されているのか。	校庭の日よけについては、今後の設計の中で検討していきます。
35	校庭には日よけとなる建物等はあるか。	
36	渡り廊下を設置予定とあるが、エレベーターを設置するなど、上階への昇降が難しい児童・生徒に対するケアはあるか。	練馬区福祉のまちづくり推進条例を踏まえ、誰でもトイレの設置等のバリアフリー化を計画しています。その中で、北側敷地の校舎棟、南側敷地の体育館棟ともにエレベーターを設置するなど、渡り廊下を円滑に通行できるように検討しています。
37	建物内の詳細など、新校舎の設計図を示してほしい。	詳細は基本設計終了後、説明会の開催等により保護者や地域の皆様にお知らせしていきます。
38	2校ともに防災拠点として施設機能を強化してほしい。今回のような感染症併発に備えて、パーテーション等も充実してほしい。	現在、旭丘中学校の体育館は2階にありますが、新校では第一・第二体育館ともに1階に設置し、防災備蓄倉庫を各体育館付近に設置するなど、避難拠点としての利便性がより高くなるよう整備します。区では、新型コロナウイルス感染症の発生を踏まえ、マスク、フェイスシールド、消毒液、非接触型体温計、間仕切り等の感染症対策物資を、新たに各避難拠点の備蓄品に追加しています。
39	現在、旭丘小学校のプールの横にある大きな桜の木は伐採予定か。	既存樹木を活用した緑化計画を検討しているが、建物や植栽を含めた全体の配置を考慮し、実施設計において詳細を検討していきます。
40	現在、旭丘小学校のプールと畑がある区域は、どのように活用する予定か。	具体的な活用方法については、今後の設計の中で検討していきます。

41	学校生活への影響が少くなるよう、工事期間をできるだけ短くしてほしい。	児童・生徒の教育や生活環境への影響が少ない建替え方法を検討するとともに、工事期間中の児童・生徒の安全性を確保しながら、工期の短縮を図っていきます。
42	工事期間中、小・中学校どちらかの校庭・体育館は使えるようにしてほしい。使えない場合は、近隣の学校から借りるなど、柔軟な対応をお願いしたい。	校庭については、工事期間中、全面使用はできませんが、工事工程ごとにできるだけ屋外運動スペースを確保できるよう検討していきます。 体育館については、工事期間中においても小・中いずれの体育館も使用できるように計画します。 部活動については、校内の運動スペースの確保を検討しながら、校外施設の活用についても検討していきます。
43	中学生の部活動や小学生のクラブ活動が継続できるように配慮してほしい。	
44	小・中学校の教育活動を踏まえ、学校施設と複合施設の同線を分けるなど、プライバシーに配慮した対応をしてほしい。	複合化する区立施設は、地域全体からのアクセス等の利便性を考慮し、北側敷地の1階に配置し、北側または西側の道路からアクセスできる計画としています。 改築にあたっては、学校施設と複合施設の入口を別々に設け、動線を工夫するなど、児童・生徒の安全や教育活動等への影響に最大限配慮しながら検討を進めています。
45	学校施設とねりっこクラブがある複合施設は、建物を分けてほしい。学校と学童が渡り廊下等で離れていれば、長期休暇中も「毎日学校に行く」という気持ちが軽減されるのではないか。	改築にあたっては、学校施設と複合施設の入口を別々に設け、動線を工夫するなど、児童・生徒の安全や教育活動等への影響に最大限配慮しながら検討を進めています。 ねりっこクラブについては、利用する児童の利便性等を考慮し、複合施設内の児童館と近接した場所への配置を計画しています。
46	ねりっこクラブは工事のどの段階で完成し、利用できるようになるのか。	新校舎内には、学童クラブ室、ひろば室を整備し、整備完了後、年度切り替えのタイミングを目途に、ねりっこクラブを実施する予定としています。 現在、旭丘小学校に通学する児童が利用する学童クラブとしては、栄町児童館学童クラブを主にご案内しています。新校舎完成までは、引き続き児童館学童クラブをご利用ください。
47	工事期間の学童保育はどんな形態になるのか。現状の体制を含めて教えてほしい。	

48	小竹小学校は、災害時の重要な避難拠点でもある。早期に改築に着手してほしい。また、学童・ねりっこクラブを設置してほしい。	<p>学校施設の改築については、建築年数や児童・生徒数の動向等を総合的に考慮しながら、改築校の選定を行っています。改築までの間は、引き続き、施設の状況をしっかりと把握し、必要な改修等の対応を随時行い、児童の安全かつ適切な学校運営を確保していきます。</p> <p>小竹小学校については、今後の児童数の動向を見定めつつ、引き続き、保護者や地域のご意見を伺いながら検討していきます。</p> <p>ねりっこクラブについては、区では現在、全ての小学校での実施を目指しています。小竹小学校についても、今後の児童数の動向等を見定めながら、検討していきます。</p>
49	複合施設、体育館やプール等の地域住民への貸出しを検討してほしい。	複合施設は、各施設の対象者のみの利用を想定しています。学校施設の貸出しについては、現状の地域利用の状況等を踏まえて検討していきます。
50	今回の施設に保育園を併設してほしい。なぜ今のところ計画に入ってないのか、理由を伺いたい。	区では、保育所待機児童解消に向け、民間認可保育所の新設等により、大幅な入所定員の増を図っています。当地域においても、複合施設の完成を待つことなく、入所定員が十分確保される見込みです。
51	地域行事や、子どもたちの通学距離等を考えると、小竹小学校を残してほしい。	<p>小竹小学校については、今後の児童数の動向等を見定めながら、検討していきます。</p> <p>個別の説明会等については、保護者や地域からのご要望に応じて対応していきます。</p>
52	小竹小学校の改築や学童に関する意見は、一貫教育とは別に議論してほしい。	

その他

	主な意見	意見に対する区の考え方
53	これまで説明会があつたが、定期的に進捗状況を確認したい。区ホームページ等で確認することはできるか。	これまで、定期的に説明会を開催するとともに、いただいた主なご意見や区の考え方を区ホームページに掲載してきました。 令和元年度からは、小中一貫教育校推進委員会の開催概要についても随時、掲載しています。掲載場所は下記のとおりです。 なお、令和2年度はこれまでに2回開催しています。 練馬区ホームページ > 子育て・教育 > 教育 > 学校教育・施設 > 小中一貫教育の推進 > 施設一体型小中一貫教育校 > 現在進めている取組（旭丘・小竹地域における 新たな小中一貫教育校）> 小中一貫教育校推進委員会
54	今後のスケジュールや、その間の学校生活等について、定期的に情報提供をしてほしい。	次回から、紙媒体のお知らせ等にQRコードを併せて掲載します。
55	小中一貫教育校推進委員会の内容について、詳細を掲載してほしい。令和2年度は何回開催したのか。	今後は、これまで以上に検討状況をお伝えしていく必要があると考えています。保護者や地域の皆様にご相談、ご協力をいただきながら、しっかりと情報提供に努めています。
56	紙のお知らせにQRコードを掲載するなど、ホームページの該当箇所に簡単にアクセスできるようにしてほしい。	